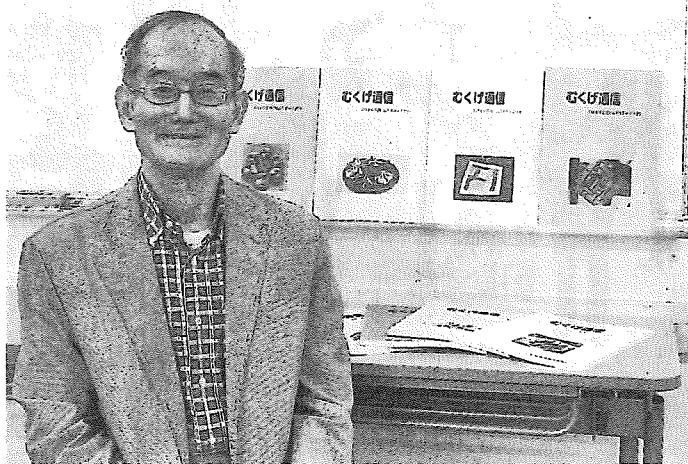


「むくげの会」代表の飛田雄一さんと合本



【兵庫】韓國・朝鮮の歴史、文化、風俗、言葉を勉強する日本人を中心としたサークル「むくの会」(飛田雄一代表、神戸市灘区・神戸学生青年センター内)の團月刊機関誌「むくの通信」が300号(5月31日発行)に達した。300号記念パーティーは「むくの会」創立50周年と併せて来年1月に開催する。

隣国理解へ実証研究 「むくげ通信」300号

当初は会の連絡メモのようなものだったが、その後は月刊として充実した内容になつていつた。毎月2回開く例会での発表内容を中心に約10本収録している。テーマは考古学から家族制度などの社会学、労働、農民運動史、歌謡曲など諱半島の文化に関する記述があつた。

創立は1971年1月。「ベトナム（ベトナムに平和を）市民連合」神戸の中生まれた「差別抑圧研究会」に参加していた学生15人がアジアに目を向け、「日本人である自分とのぬきだしらない問題として」「身近な国、韓国・朝鮮をもつと知りう」と呼びかけた。

古学、社会学、歌謡曲で創立メンバーの一人でもある糸田代表は「同僚と会を始めた時は20代前半だった。隣国の理解は友好のためだけでなく、現在の日本人自身を見つめながら」と振り返った。

例会の会場は当初、神戸市の中にある安アパートの4畳半だった。まずはハングルを学び、やがて韓国・朝鮮の文化、歴史、風俗を研究していくようになつた。一定の理解が深まると、指紋押捺に反対する在日韓国・

Digitized by srujanika@gmail.com